

令和 5 年 6 月 4 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00075

研究課題名(和文) シンガポールにおける民族集団の多元的共存と宗教・文化政策 - 宗教間関係を焦点に -

研究課題名(英文) Singapore as a Pluralistic Nation and Its Religio-cultural Policies for Ethnic Harmony

研究代表者

山下 博司 (Yamashita, Hiroshi)

東北大学・国際文化研究科・名誉教授

研究者番号：20230427

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、多元社会シンガポールを主たる研究対象に位置づけ、錯綜する民族間関係と宗教間関係の現状分析を踏まえ、集団間の調和的関係の構築・維持の方策とメカニズムとを、現地調査を核に、複眼的視点から捉えようとするものとして企画された。しかし初年度後半から表面化したコロナ感染症が進捗の大きな障害となった。メンバーは、予期に反してオンラインでの取材活動を余儀なくされたが、各々工夫を凝らして業績に結実させることができた。この間、コロナ感染症への宗教施設への対応やパンデミック下の儀礼の変容など、思いがけない事態に遭遇して、新たな問題意識の萌芽を得ることができたのは、ある意味で幸いなことであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

民族間の調和的関係は宗教間の調和的関係と不可分である。シンガポールを含むマラヤ世界は、典型的な民族縦割り構造をなし、民族と宗教の対応関係も錯綜している。諸集団が相互排除的な関係にとどまるかぎり、コミュニティ対立の火種は潜在し、他者理解に裏打ちされた集団間の和諧は遠のく。本研究では、この観点から、地域社会に併存する集団間にいかにして不和が起こり、またいかにすれば調和的関係が構築され得るかについて、理念と実践の両面から考究され、集団間の平和的共存の鍵としての社会的包摂の実現可能性が検討された。今回の研究成果は、多元社会に踏み台がある日本への示唆を含むものとして学術的価値は小さくない。

研究成果の概要(英文)：Having Singapore as the main subject of research, this project aims to investigate the policies and mechanisms for building and maintaining harmonious relationships between groups, based on an analysis of the current state of complicated inter-ethnic and inter-religious relationships. It was planned to capture it from a compound perspective. However, the corona infection that surfaced in the second half of the first year became a major obstacle to progress. Contrary to expectations, the members were forced to conduct online research activities, but they were able to put their ingenuity into practice and achieve results. In a sense, we are fortunate that during this time, we were able to encounter unexpected situations, such as the response of religious facilities to COVID-19 and the transformation of rituals under the pandemic, and were able to gain a new awareness of issues.

研究分野：南アジア研究、移民研究(インド系移民集団を中心に)

キーワード：シンガポール 宗教間理解 宗教間対話 宗教政策 文化政策 多元社会 宗教多元主義 複合民族国家

1. 研究開始当初の背景

民族間の対立や紛争の根底にしばしば「宗教」が伏在することは、近年の係争事案を見ても明らかである。宗教的な緊張関係の抑止が民族集団の共存にいかに関係かが伝わってくる。民族間の協調は宗教間の協調に多くを負っており、これは概ねアジアにも妥当する。とりわけシンガポールを含むマレー世界は民族縦割りの列柱社会をなし、宗教と民族間の対応関係も単純でない。宗教的・民族的な対立要因を抱え込むか否かが地域社会の安寧を左右していると言ってよい。いずれにせよ、諸集団が「列柱」のままとどまるかぎり、コミュニカル対立の火種は潜在し、他者理解に裏打ちされた国民統合の実現は遠のくことになる。

本研究プロジェクトでは、集団間の摩擦や対立要因を潜在させた複合社会シンガポールで、いかなる理念と方策のもと民族共生に向けた試行が行われているかが討究される。具体的には、社会の「列柱」に横串を通すための「官」と「民」にわたる宗教和諧と民族交流の取り組みを、トップダウンとボトムアップの両様の視角から評価する。その上で、当該国の国民統合の手法と現状とを、成否を含め批判的に吟味するとともに、私的領域への国家の戦略的な介入が惹起する弊害と諸課題をも析出しようと試みる。シンガポールの先駆的事例の検討は、必然的に、宗教・文化と世俗権力をめぐる普遍的問題にも我々を導くことになる。

2. 研究の目的

本課題は、民族と宗教が混在するシンガポールを対象に、錯綜する民族間関係と宗教間関係の現状を分析し、諸集団の調和的関係の構築・維持の方策と仕組みとを、宗教を軸に官民の双方向から捉える試みである。宗教問題と宗教政策を安寧秩序の要と捉え、各宗教・各民族文化に精通し方法論的にも多様な専門家を動員して核心に迫る。宗教と密に絡む民族文化の問題も考察に加え、文化政策の動向に配慮しつつ、宗教間問題を軸に同国のコミュニティビルディング/ネイションビルディングの重要な一側面に迫る。本プロジェクトは、典型的な多宗教・多民族社会の足跡と試行錯誤の批判的検証を通じ、複合社会化しつつある日本への重大な示唆を得ようとするものである。

シンガポールの多文化主義について、宗教横断的かつ民族横断的に、集団内部の視点も加味し、相互理解の草の根の努力にまで踏み込んで為された研究は未見である。本研究はこの意味で、重大な欠落を埋め、新たな着眼と独自性をもち、かつ現代的意義も有する。

近代国家シンガポールの「壮大な社会実験」は、その是非や評価はともかく、国際社会に先駆的な事例を提供し、社会科学のみならず、地域研究・文化研究・宗教研究など人文学分野にも貴重な知見と教訓とを含んでいる。加えて、宗教多元主義と公共宗教、世俗国家における宗教の排除と包摂、宗教政策と宗教の私事化/公共化(脱私事化)といった問題をも提起し、ひいては日本の国際化の方途と帰趨の問題にも接続するもので、本研究プロジェクトは多重の意義に裏打ちされている。

3. 研究の方法

本研究は、都市国家シンガポールの国民統合・国家統合について、宗教、文化、および民族間関係・宗教間関係の観点から重層的に考究する試みである。シンガポールの主要な宗教集団を尽

くし、かつ各方法論・ディシプリン(宗教史、比較宗教学、文化人類学、宗教人類学、地域研究)にわたる複数の研究者を組織・動員して課題遂行に当たる。宗教集団別では、山下(研究代表者)がヒンドゥー教と仏教・道教、保坂(研究分担者)がスィク教とイスラーム、竹村(研究分担者)がヒンドゥー教等、市岡(研究協力者)がイスラーム、岡光(研究協力者)がキリスト教をそれぞれ分担する。文献研究(フィロロジー)と現地調査(フィールドワーク)の両面、理論面と現象面(実践面)の両面、宗教面と文化面の両面について、それぞれバランス良く光を充てることで一方的に行き過ぎた解釈や議論を戒め、妥当で説得力のある統合的知見・結論に至ることを旨とするものである。

4. 研究成果

上記の目的意識と方法論とをベースとする本研究プロジェクトは、別途に詳説するとおり、その研究成果の詳細も多産かつ多岐にわたっている。成果発表・公開の方法や場所についても同様に、新型コロナ感染症にともなうさまざまな困難にもかかわらず、各メンバーの便宜や機会に応じて多彩な公開のあり方が模索されてきた。研究代表者は、オンラインによる国際シンポジウムの関連セッション(アジアの異宗教間理解に関わる諸問題)も主宰し有意義な議論を展開することができた。

対面による研究会は、パンデミック禍の発生に先立つ研究計画初年度の1回にとどまってしまっただが、代表者が継になるかたちで、分担者の渡航先に赴いて意見交換・情報交換をおこなったり、メールによる連絡を欠かさぬように努めたりするなど、感染症の蔓延によって生じた諸困難の克服に奔走することとなった。コロナ感染症による制約は最終年度まで影を落とすことになり、最後まで真の意味での「正規の軌道」に服することはできなかったが、皮肉なことにコロナ感染症とそれをめぐる政策措置に対する宗教組織や信者側のレスポンスや儀礼の変容の様態が新たな問題意識を育み、ポスト・コロナの宗教現象に新たな視角を与えたことはせめてもの幸いであった。

成果公開は、当初予定の3年間だけでも、総体で書籍(図書)が計20件、論文が計17件、研究発表が計29件(うち国際学会における英語での発表は11件)となっており、成果発信の実が上がったことが示唆されるであろう。最終年度を加えれば、さらに明らかにこの数は顕著に増大することになる。

そもそも申請調書に「やむを得ない事情で研究遂行に遅滞が生ずる事態に備え、仮に研究計画の一部が未達成を余儀なくされる場合でも成果公開できるよう、考察内容・考察対象・調査先に優先順位を施し、年度毎に研究に纏まりを設けつつ遂行し、かつ随時研究成果を発信していくよう努める。」と記してあった。猖獗を極めた新型コロナ感染症により、「調査先に優先順位を施す」ことはままならなかったものの、概ね非常事態の対処については当初目標の大きく外れないかたちで大過なく進捗したものと自負している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 山下博司	4. 巻 95巻（別冊）
2. 論文標題 インドネシア（北スマトラ州）メダン都市圏のインド系移民と宗教	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 280-281
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 市岡卓	4. 巻 22号
2. 論文標題 イスラームからの棄教者の社会的包摂をめぐる問題－多民族・多宗教社会シンガポールの文脈から－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 異文化	6. 最初と最後の頁 5-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下博司	4. 巻 36号
2. 論文標題 現代インドネシアにおけるヒンドゥー教の現状 - バリ系のヒンドゥー教などをめぐって -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東方	6. 最初と最後の頁 269-286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下博司	4. 巻 34巻411号
2. 論文標題 現代インドネシアのヒンドゥー教 - 多様性とエスニシティの問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 286-287
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 保坂俊司	4. 巻 6月号
2. 論文標題 神は多数か唯一か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大法輪	6. 最初と最後の頁 90-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市岡卓	4. 巻 第22号
2. 論文標題 シンガポールのムスリム女性たちにとってのジェンダーとイスラームの交差 ムスリム女性たちによる『ブルンブアン』の出版から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化	6. 最初と最後の頁 131-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 市岡卓	4. 巻 第21号
2. 論文標題 現代シンガポールのリベラル派ムスリムによる言論活動の意義と課題 『ブディ・クリティック』の出版から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 異文化	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保坂俊司	4. 巻 12月号
2. 論文標題 宗教と労働	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大法輪	6. 最初と最後の頁 14-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡光信子	4. 巻 34巻411号
2. 論文標題 宗教儀礼の世俗性 - インド・カトリック教会の初聖体を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 287-288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡光信子	4. 巻 95巻 (別冊)
2. 論文標題 宗教を超える紐帯 - 南インドの異宗教間結婚を事例にして -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 269-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡光信子	4. 巻 96巻 (別冊)
2. 論文標題 インドネシアにおけるカトリックの慈善事業の持続可能性と限界	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 274-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下博司	4. 巻 96巻 (別冊)
2. 論文標題 中東におけるインド系宗教の現状 - オマーンとUAEを中心に -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 291-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 山下博司
2. 発表標題 インドネシア（北スマトラ州）メダン都市圏のインド系移民と宗教
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 市岡卓
2. 発表標題 イスラームからの棄教者の社会的包摂をめぐる問題－多民族・多宗教社会シンガポールの文脈から－
3. 学会等名 日本マレーシア学会研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山下博司
2. 発表標題 現代インドネシアのヒンドゥー教 - 多様性とエスニシティの問題 -
3. 学会等名 日本宗教学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹村嘉晃
2. 発表標題 シンガポールにおける『ナショナルな』舞踊の生成 - ピープルズ・バラエティー・ショー とインド人舞踊家の関わりを中心に
3. 学会等名 南アジア地域研究・現代中東地域研究国立民族学博物館拠点連携研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹村嘉晃
2. 発表標題 Challenging New Space and Represented Sound: Emerging Newly Indian Drum Ensemble in Singapore
3. 学会等名 Shiv Nadar University and Music Archive Monash University Online Symposium on Music and Social Affect: Building Genealogies of Music in Asia, Shiv Nadar University (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 市岡卓
2. 発表標題 シンガポールにおけるイスラームからの棄教者の社会的包摂をめぐる課題について
3. 学会等名 日本国際文化学会全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 市岡卓
2. 発表標題 シンガポールのムスリム女性たちの異議申立てにみるジェンダーとマイノリティの交差 『プルンプアン』の出版から
3. 学会等名 日本社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takemura, Yoshiaki
2. 発表標題 Identification of Traditional Values in the Performance of the Ramayana amongst the Indian Diaspora in Singapore
3. 学会等名 The 45th International Council for Traditional Music (ICTM) World Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takemura, Yoshiaki
2. 発表標題 The Arts Power on! ' : the Development of Indian Performing Arts and the Germ of Cultural Policy in the Early 1960s in Singapore
3. 学会等名 The 48th Annual Conference on South Asia, Madison (USA): the Madison Concourse Hotel and Governor ' s Club (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takemura, Yoshiaki
2. 発表標題 Decline in Interest or Emerging New Platform Evolving?: the Transformation of Bharatanatyam among the Indian Diaspora Communities in Singapore
3. 学会等名 The 3rd Asian Consortium of South Asian Studies Conference, South Asia in Context: Genealogies and Trajectories (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takemura, Yoshiaki
2. 発表標題 Tamilness or Global Indianess?: Evolution of Bharatanatyam and Sri Lankan Tamil Diaspora in Singapore
3. 学会等名 UWPA International Research Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市岡卓
2. 発表標題 ムスリムの異教徒との結婚を擁護するシンガポールのムスリムの主張について
3. 学会等名 第18回日本国際文化学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市岡卓
2. 発表標題 現代シンガポールのリベラル派ムスリムによる社会運動の意義と課題
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保坂俊司
2. 発表標題 シク教（ナーナク）思想の現代的意義
3. 学会等名 ナーナク生誕500年祭（インド大使館ヴィバーカナンダホール）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡光信子
2. 発表標題 宗教儀礼の世俗性 インドのカトリック教会の初聖体を事例に
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡光信子
2. 発表標題 宗教を超える紐帯 - 南インドの異宗教間結婚を事例にして -
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡光信子
2. 発表標題 インドネシアにおけるカトリックの慈善事業の持続可能性と限界
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山下博司
2. 発表標題 中東におけるインド系宗教の現状 - オマーンとUAEを中心に -
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 YAMASHITA, Hiroshi, "
2. 発表標題 "A new aspect of Hinduism in the diaspora and its significance: Tamil ritual worship at a Hindu temple in Jakarta, Indonesia "
3. 学会等名 The 1st International Symposium of the Indian Ocean World Studies (Discovering the Indian Ocean World: "gyres", Indian Ocean and beyond) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 山下博司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 253
3. 書名 三尾稔編『南アジアの新しい波・下巻 環流する南アジアの人と文化』	

1. 著者名 竹村嘉晃	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 312
3. 書名 栗本英世・伊東未来・中川理・村橋勲編『かかわりあいの人類学』	

1. 著者名 竹村嘉晃	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 253
3. 書名 三尾稔編『南アジアの新しい波・下巻 環流する南アジアの人と文化』	

1. 著者名 竹村嘉晃	4. 発行年 2022年
2. 出版社 めこん	5. 総ページ数 253
3. 書名 福岡まどか編『現代東南アジアにおけるラーマヤナ演劇』	

1. 著者名 竹村嘉晃	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 344
3. 書名 田村慶子編『シンガポールを知るための65章【第5版】』	

1. 著者名 保坂俊司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 724
3. 書名 仏教事典（「インド仏教の衰亡」を分担執筆）	

1. 著者名 竹村嘉晃	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 296
3. 書名 地域研究のすすめ ようこそ南アジア世界へ（「南アジアをあるく スポーツ スポーツ文化と社会の発展」と「南アジアをあるく 芸能 グローバルに拡散する芸能文化」を分担執筆）	

1. 著者名 竹村嘉晃	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 368
3. 書名 世界を環流するインド - グローバリゼーションのなかで変容する南アジア芸能の人類学的研究（「インド舞踊のグローバル化の萌芽 - ある舞踊家のライフヒストリーをもとに」を分担執筆）	

1. 著者名 竹村 嘉晃	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832
3. 書名 信田敏宏編『東南アジア文化事典』（執筆「東南アジアにおけるインドの音楽・芸能」）	

1. 著者名 市岡卓	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 長沢監修、森田・小野編著『結婚と離婚 イスラーム・ジェンダー・スタディーズ1』（執筆「多民族社会シンガポールにおけるムスリムの宗教間結婚」）	

1. 著者名 保坂俊司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 301
3. 書名 『アジア的融和共生思想の可能性』（執筆「梵天勸請思想と神仏習合 仏教の平和思想を支えるもの -」、「仏教的寛容思想と日本的寛容 和（やわらぎ）思想の意義」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	保坂 俊司 (Shunji HOSAKA) (80245274)	中央大学・国際情報学部・教授 (32641)	
研究分担者	竹村 嘉晃 (Yoshiaki TAKEMURA) (80517045)	平安女学院大学・国際観光学部・准教授 (34202)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------